

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	03300000	建設水道部 土木課		
大事業	A1	6 つのまちづくり宣言	健康増進	款項目	07	土木費	04	都市計画費		04	公園費
		目指す姿	生涯健康で、元気に生きる！	K P I	健康寿命の延伸 健康増進に積極的に取り組んでいる人の割合				目標値	(男性)81.00歳(女性)86.00歳 70.0%	
中事業	01	主要な取り組み	まず一歩、健康はウォーキングから								
小事業	10	都市公園整備事業			目標年度	令和6年度					



イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	都市公園の老朽化による更新や公園の管理基準と市民ニーズの変化等による公園施設の改修・更新が求められている。また、都市公園法の改正により公民連携等による新たな運営管理手法の可能性が広がり、市民サービス向上のための運営手法について再検討が求められている。					
対 象	都市公園等の利用者					
目 的	清掃や施設の改修および保守点検等を行うことで、快適で安全な都市公園の維持と利用者数の増加を図る					
概 要	市民が安全で快適な憩いの場所として利用できる公園を維持するため、清掃や施設の改修および保守点検等を行う 前平公園の民間活力を利用した管理運営を進めていく。					
事 業 費 (千円)		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	160,243	101,510	105,075	155,473	122,745
	決算額	110,527	94,390	90,929	126,059	119,833
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		2,594 /				1,794



アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	老朽化した公園リニューアル事業の実施数	目標値	1	1	1	1	1
		実績値	1	1	1	1	1



アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	市民満足度調査による住みよいまちと感じる人の割合（％）	目標値	75	75	75	75	75
		実績値	75.7	75	70.7	70.1	70.1

実
績

効
果



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	前平公園は、プロポーサル方式の発注形態により、前平公園の特徴を生かし、市民の休息・鑑賞・散歩・遊戯・運動等総合的な利用ができる公園であり大型複合遊具の整備ができた。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	総合公園の大型遊具の更新であることから、市民へ大きなインパクトを与えることができた。
	実績からR07年度の 事業の方向性	公園それぞれの特徴を活かした整備計画を実施する。 前平公園では、幼児用遊具の更新、トイレの改修を実施する。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	03300000	建設水道部 土木課	
大事業	E1	6つのまちづくり宣言	地域再生	款項目	07	土木費	04	都市計画費	04	公園費
		目指す姿	地域の魅力をアップデート！	K P I	あい愛バス利用者数 住みよいまちだと感じる人の割合				目標値	120,000人 80.0%
中事業	01	主要な取り組み	みんなのまちを、みんなでつくる							
小事業	03	クリーンパートナー事業		目標年度	令和6年度					



イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	限られた予算の中で、公園等の公共施設の維持管理には限界があり、地域住民の協力が 必要である。					
対 象	公共施設にて清掃活動等を実施するボランティア団体。					
目 的	公共施設への愛着をもって管理していただくことで公園利用者の増加を図るととも に維持管理費の縮減を図る。					
概 要	都市公園などの公共施設において地域住民や市民団体、企業などが実施する維持管 理活動を支援する。 ・清掃活動に必要な道具の貸出 ・ボランティア保険への加入 ・ごみ収集、除草後の回収、処理					
事 業 費 （千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	1,550	1,550	2,180	2,100	1,750
	決算額	762	1,077	1,313	1,321	1,364
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		451 /				30



アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	HP等を活用したクリーンパートナー活動の年間紹介数	目標値	10	10	10	10	10
		実績値	6	16	12	9	13

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	クリーンパートナー登録団体数	目標値	51	52	54	58	60
		実績値	51	53	57	59	61

実
績

実 績	登録団体数 61団体 活動報告書提出団体数 34団体 活動回数 398回 土木課備品貸出 8団体22回
効 果	道路路肩や使用していない花壇などに花を植えたいとの要望があり、クリーンパートナー団体に登録し、市民自らが率先して美化活動に参加している、

評
価
分
析

活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	昨年度、数値未達成のために、R6年度は活発に取材活動に取り組んだ結果、目標値を達成出来た。
K P I分析 目標値の達成 ・未達成要因	自分の住む町は美しくありたいとの意思のもとクリーンパートナー登録をした団体があり、登録団体数が目標値を達成した。
実績からR07年度の 事業の方向性	令和7年度から積極的な情報発信として、インスタグラムを使用した活動記録を発信する。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	03300000	建設水道部 土木課		
大事業	E1	6つのまちづくり宣言	地域再生	款項目	07	土木費	04	都市計画費		04	公園費
		目指す姿	地域の魅力をアップデート！	K P I	あい愛バス利用者数 住みよいまちだと感じる人の割合				目標値	120,000人 80.0%	
中事業	01	主要な取り組み	みんなのまちを、みんなでつくる								
小事業	04	かわまちづくり整備事業		目標年度	令和6年度						

イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	かわまちづくり基本計画の目標である、拠点（美濃太田駅、中山道会館、リバーポートパーク美濃加茂）の賑わいの創出及び拠点間の連携によるエリア全体の活性化（地域資源を活かした賑わいと学び）が達成できていない。					
対 象	木曽川河川利用者、周辺住民					
目 的	市民や施設利用者の意見を反映した事業を実施することで、かわまちづくりエリアの賑わいと憩いの場の創出につなげる					
概 要	リバーポートパーク美濃加茂が賑わうよう運営管理する指定管理者とともに事業を計画、実施する					
事 業 費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	40,543	34,754	29,852	24,871	25,410
	決算額	38,173	30,102	29,051	23,126	24,580
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		593 / 0				

アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	イベント等まちづくりに関する取 り組み実績回数（回）	目標値				35	90
		実績値				91	157

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	リバーポートパーク来訪者数	目標値				130,000	130,000
		実績値				180,300	192,700



実 績	実 績	・ イベントの開催回数157回 ・ パーク来訪者数192,700人 木曽川中流域合同イベント：「ワンパークリバーフェス」「river to sum mit」、リサイクル市場：「超絶蚤の市」等
	効 果	中之島公園来園者数が想定以上となった。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・ 未達成要因	指定管理者がHP、ブログ、FB、インスタ、LINE、X、Googleを利用しPRを 行った結果、認知度が広がり想定以上のイベントが実施された。
	K P I 分析 目標値の達成 ・ 未達成要因	ソフト事業が充実したことで、想定以上の賑わいの創出ができた。
	実績からR07年度 の事業の方向性	イベント実施は飽和状態に近くなっているため、継続できるソフトハ ード事業を展開しつつ、新たな価値観を体験できる事業を充実する。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	03300000	建設水道部 土木課		
大 事 業	E1	6 つのまちづくり宣言	地域再生	款項目	07	土木費	04	都市計画費		04	公園費
		目指す姿	地域の魅力をアップデート！	K P I	あい愛バス利用者数 住みよいまちだと感じる人の割合					目標値	120,000人 80.0%
中事業	01	主要な取り組み	みんなのまちを、みんなでつくる								
小事業	05	K i s o ジオパークにぎわい創出事業（定住）		目標年度	令和6年度						



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	氾濫や増水から人々の暮らしを守るための河川改修や堤防の築堤により、人々の安心・安全な生活は確保され、豊かな生活が出来るようになった一方で、生活水準の向上に伴い人々と川との関わりは少なくなった。また、暮らしの中で木曽川の恩恵を直接享受している世代（60代以上）が存在している今こそが、地域特有の文化（川の文化）を継承できるラストチャンスである。				
	対 象	圏域住民				
	目 的	川の持つ楽しさや魅力を伝える一方で、川が持つ危険性や万が一危険な状況が起こった場合の対処法などを地域の方（子供たち）にわかりやすく伝え、事故を防ぐための啓発を行うとともに、木曽川への親水性を高め、賑わいのある河畔空間を創出し、「人と川の素敵な関係がうまれるまち」を圏域の特徴として、川のある暮らしを未来に継承していける人と人の繋がりをつくることを目的とする。				
	概 要	河畔空間の魅力向上のための整備や、川のリスクマネジメント・川のある暮らしを体験できるプログラムを企画・実施していく。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	7,724	17,800	10,994	18,949	9,118
		決算額	7,724	13,352	7,645	15,959
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		503 / 0				



実 績	実 績	イベント回数：157回、参加人数：77,000人 Kisoジオパークにぎわい創出事業としてのイベント： ・生き物講座（7回、参加者99人） ・子供アートワークショップ（1回、参加者100人） ・木曽川護岸堤防ソーラー街灯設置及び木曽川河畔遊歩道改修
	効 果	堤防道路空間の改善による堤防利用環境の向上や、各種体験学習などのソフト事業が充実してきたことにより、木曽川河畔エリアの利用人数が増加している。 木曽川及び河畔の森などを活用した各種プログラムにより、川との良好な関係性が育まれ、「川のある暮らし」が新たな価値観として広がっています。



アウト プ ット	活 動 指 標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	イベント等まちづくりに関する取り組み実施回数（回）	目標値		34	35	36	37
		実績値		24	101	91	157



アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	堤防道路の利用人数（人）	目標値		248,000	249,500	251,000	252,500
		実績値		236,037	249,350	268,300	271,747

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	指定管理者主催、市民団体主催のイベントを多く開催することができた。大規模イベントだけでなく、ホール等での小規模なイベントも実施。また、定期的に行っているイベントもあり、中之島公園がイベント開催場所としての認知度が上がったと考えられる。 魅力ある地域資源（木曽川及び河畔林）を探索することを目的とした親子で参加する「生き物講座」では、地域愛の醸成が促進された。 活動指標目標値の変更についてですが、イベント開催回数が近年当初の想定を大きく上回る結果となっている。これは運営手法や制度設計によるものであり、好循環が定着しつつあると考えられます。令和7年度からは、目標数を年間100回以上に維持することを目指した指標へ見直す。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	各種イベントを開催したことで、利用者が増加した。指定管理者とともに、引き続き中之島公園や木曽川河畔を使用したイベントを実施し、目標達成に努める。
	実績からR07年度の 事業の方向性	木曽川周辺の自然を活用した自然体験学習や現代アートに触れる機会を得ることで、豊かな人間性、自ら学び、自ら考える力や新たな感性を育み、生きる力の基盤を育てると共に地域愛を醸成し、定住促進に寄与する事業であり継続して事業を進める。 堤防道路や木曽川河畔遊歩道の利用者に快適な河畔空間を提供するため、老朽化した舗装等の修繕を進める。 令和5年度まで実施していた圏域の小学生を対象とした川のリスクマネジメントが他部署（教育センター）に移管されましたが、小学生だけでなく広く体験・勉強できる公募による夏休み安全講習会についても、大きな効果が期待できるため、引き続き検討する。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	03300000	建設水道部 土木課		
大事業	E1	6つのまちづくり宣言	地域再生	款項目	07	土木費	04	都市計画費		04	公園費
		目指す姿	地域の魅力をアップデート！	K P I	あい愛バス利用者数 住みよいまちだと感じる人の割合				目標値	120,000人 80.0%	
中事業	03	主要な取り組み	地球とまちの環境を守る								
小事業	04	ヤギさん除草事業		目標年度	令和6年度						



イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	ヤギ除草を施工する箇所は法面が急であり足場がないため、人力で行うと転落による事故の危険性がある。ヤギは急峻な場所でも容易に移動することができることから、法面での飼育に問題がなく有効に緑地管理を行うことができる。					
対 象	近隣市民、公園等利用者					
目 的	ヤギさんによる除草をすることで、環境に優しく低コストな手法による公共用地法面の保全					
概 要	環境に優しく低コストな法面除草の手法であるヤギさん除草をさくら広場などの公共緑地において実施する					
事業費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	7,400	7,400	10,092	9,720	10,022
	決算額	7,205	7,348	9,999	9,608	9,955
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		342 /				0



アウト プ ット	活 動 指 標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	ヤギさん除草のイベント回数	目標値	1	1	2	1	1
		実績値	0	1	1	2	2



アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	ヤギさん除草の年間紹介回数	目標値	3	3	3	3	3
		実績値	1	3	3	3	12



実 績	実 績	ヤギさん除草を実施（施工面積 A = 3.4ha） ・さくら広場、給食センター北緑地 ・あじさいヶ丘3丁目法面 ・中部台パーク調整池 ・文化の森西緑地 ヤギさんイベント 2回
	効 果	緑地の適正管理 ヤギさん除草隊初日やヤギの日イベントのテレビ放送、新聞記事でヤギさん除草をきっかけとして市のPRになりました。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	春と秋にイベントを行い、市内外から多くの人々がヤギ除草を知ってもらえたことができた。活動初日やイベントにはメディアからの取材があり、市のPRに繋がった。ヤギさん除草という形態が報道映えすると考えられる。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	テレビや新聞からの取材が多くあり、ヤギさん除草をとおして美濃加茂市のPRとなった。
	実績からR07年度の 事業の方向性	引き続きヤギさん除草を進め、緑地の適正管理及び美濃加茂市のPRを行う。ヤギイベント2回を予定。